

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 10

2011 No.685

3 はじめの言葉

4 気になる日本のGDP

どう見て気にしているか

田原文夫

「数年前のリーマンショック以上かも知れない」とされる最近の世界経済状況である。EU各国の株式市場が軒並み大きな下げを記録している。理由はギリシャの国債がデフォルトの危機にあること。要するに、欧州各国の主力銀行はじめ金融機関がギリシャ国債を大量に保有しているため、デフォルト騒ぎが起きるや一気に金融株が大幅下落したわけだ。何故主力の金融機関が、それほど危ない国債を大量保有していたか。利回りが良かった、高金利だったからである。高金利ということは「ハイリスク/ハイリターン狙いの債券」だったのだ。端から危ない債券と知りつつEU各国の主要金融機関は手を出していたのである。当然、株価が急落している金融機関は、今度は自社がデフォルトするリスクと直面する可能性が高くなる。金融機関が破綻すると、最終的には国民に負担が回る。洋の東西を問わない起承転結の方程式である。EUという連合経済連邦の成立自体が大きな実験だったが、ここに来て新たな課題に直面したと言える。日本国内で問題とされるデフレ/円高問題だが、こうした世界同時株安現象が、どういう関連性を持って派生しているかを視野に入れて考え直すべきだろう。「儲かりまっか?」「あきまへんなあ」は関西地方のすれ違い挨拶だ。損をした時は他人に話すが、儲けた話、儲け話は絶対に教えない。円高で差損の出た企業だけが取材され、差益でホクホクの企業はなりを潜めている。本当のGDP論議も事実を正確に把握したところから始めることだ。

10 情報社会を考える その13

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

情報社会の基本インフラがコンピュータシステムであることは論を待たない。かといって、コンピュータシステムに依存し過ぎてしまうことは危険である。改めて情報社会の主役は我々人間であることを確認しなくてはならない。例えば、これまでの情報社会を牽引してきた金融ビジネス業界だが、あまりにコンピュータシステムに依存し過ぎたというのだろうか、様々な異変が起き始めているようだ。一番に案じられるのは、主役であるはずの人間が限りなく不在に近い状況へと動き出していることだ。人間味のないビジネスに人間は近づかない。やがては衰亡し、滅亡の道を進む。あるいはすでに社会全体の産業構造が根底から揺るぎだしたのかもしれない。これまでの常識では考えられない乱高下を見せる日米の株式市場に焦点をあて、今金融ビジネスに何が起きているかを探ってみた。

1 4 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-B I M構築が必要か その 8

水田 浩

BIM 事始め

前号で国土交通省が建築設計業務に BIM 導入の方針を掲げたのは、2010 年 3 月 31 日に官房官庁営繕部が 10 年度の発注案件で試行的に BIM を導入することを発表したことによると書いた。また、この官庁営繕部での BIM を用いた設計の試行の実施は、国土交通省が策定した「国土交通省 CALS/EC アクションプログラム 2008」の目標の一つである「③調査・計画・設計・施工・管理を通じて利用可能な電子データの利活用」のうち、具体的な実施項目として掲げている「3 次元データを活用したモデル設計・施工の実施」の一環として実施するというもので、BIM 導入の効果・課題などを検証することを目的としていることも述べた。この BIM 検証対象とされている試行業務は、標準的な規模の事務庁舎で、関東地方整備局発注の「新宿労働総合庁舎外設計業務」において展開されることになっている。主として基本設計段階で実施されることになっている。もちろん、実施設計段階も実施されることになっており、実施設計図では対象を絞った BIM モデルを作成するようだ。この契約は、設計業務の効率化と品質保証の観点から BIM の活用について、応札者に更なる提案を求めることとしている。

1 9 連載 アーキテクチャ論 (6)

アーキテクチャフレームワーク

山本修一郎

本稿では、代表的なエンタープライズアーキテクチャフレームワークとして、Zachman フレームワーク、FEA (Federal Enterprise Architecture)、TOGAF (The Open Group Architecture Framework)、Gartner フレームワークについて紹介する。

2 9 Android 端末周辺を検証せよ

各種 OS の適材適所がポイント

aism

相変わらずと言ってしまえばそれまでだが、携帯電話／タブレット端末の市場展開は早い。特に、Android OS 搭載のスマートフォン／タブレット端末の新製品ラッシュが続いている。次から次へと、出てきては消えていく。活用サイトも所有ベースも限りなく個人ユーザーではあるが、将来的な B to C 市場の展開を想定すると、企業情報システムサイトからも十分に視野に入れておく必要がある。それが悩ましい点である。特に注意すべきは Android OS 以外の OS 製品も数多く存在し、これからも新登場するであろうことである。「適材適所の OS 適用」、これが近未来の大きなポイントになりそうである。そして何と言っても注目するのは、これまで圧倒的な市場シェアを確保してきた Windows OS 陣営の動向である。最新の Windows Phone 7.5 の動向も報告しておきたい。

3 5 続インテリジェンスへのいざない 22

情報隠蔽・改ざんは自らの最大級の脅威となる

今井 武

前号で、情報発信をする側には高度な倫理性が求められることを指摘した。その真逆にある行為が、情報の隠蔽であり、改ざん行為である。情報の隠蔽はいつか発覚する。情報の改ざんもいずれバレる。一連の原発関連の情報発信がいい例である。ギリシャの国債発

行額もそうである。一旦失われた企業の信頼、国家の信用は、原状回復だけを考えても並大抵の努力では足りないだろう。場合によっては、自力の努力だけでは回復不可能となる可能性もある。最初は些細だと思える情報隠蔽、情報改ざんのつもりでも、発覚した場合の脅威は、今回の巨大津波に匹敵するものとなる。これが情報発信における潜在脅威／リスクである。

3 9 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 25 回 ソニーは 2011 年を

覇権奪回のスタートラインにできるか

根本忠明

iPod、iPhone、iPad などによってアップル社に AV ビジネスの覇権を奪われたソニーが、次期ゲーム機 PlayStation Vita の発売を契機に、その覇権奪回を目指そうとしている。ウォークマンで覇権を失った理由を改めて問い直すことによって、ソニーの覇権奪回の可能性について、検討してみよう。

4 2 新連載 ものの造れる日本再生に向けて

第二／第三の創業へ

Dr. ベスト

ゼロからのスタートという表現は、随所で聞かれるフレーズである。「もの作りの日本」として世界 No1 を標榜していたのも今は昔。「アウトソーシングの日本」と変貌し、ほとんどの分野で自前のもの作りを放棄してしまった。ここ何年かの「丸投げアウトソーシング」の結果、日本企業の多くは、必要な人材が社外あるいは国外にいる状況になってしまった。情報処理産業でのソフトウェア開発作業も例外ではない。周知のように、戦後政治のツケ回しの結果、今の日本には 1500 兆円におよぶ財政負債が重くのし掛かっている。それに追い打ちをかけての東日本大震災のダメージである。ちょっとやそっとの覚悟や意気込みで乗り越えることは出来ないほどの課題が山積だ。しかし諦めているわけにはいかない。こういう時こそ、新規創業のチャンスなのである。頭を駆使すれば、いくらでも将来が見える創業／起業ができる。「もの造れる日本再生」のチャンスである。

4 5 一味違うウェブ検索

第十五 注意すべき同義語・類似語

ぐうのうえぶへい

前回、検索内容をさらに深掘りしていくための、系統的なキーワード検索の考え方、アプローチとしての同義語・類似語のチェックについて説明した。今回はさらに、似て非なる同義語・類似語を調べるうえで注意すべき点について、今一步踏み込んで言及してみよう。

4 7 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまチヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 匿名化された電子署名方式の基本原則	第十三章 生体認証利用のための
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最新のインターネット防衛戦略心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2011年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたっての
第九章 情報セキュリティ情報研究会の意見と提議	第十九章
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	第二十章

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 監修とうまく付き合う16の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなメンバー
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商専務所長と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開発フル稼働とバリエーション
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働その二 安眠後編と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp